

# 令和6年岐阜県観光入込客統計調査

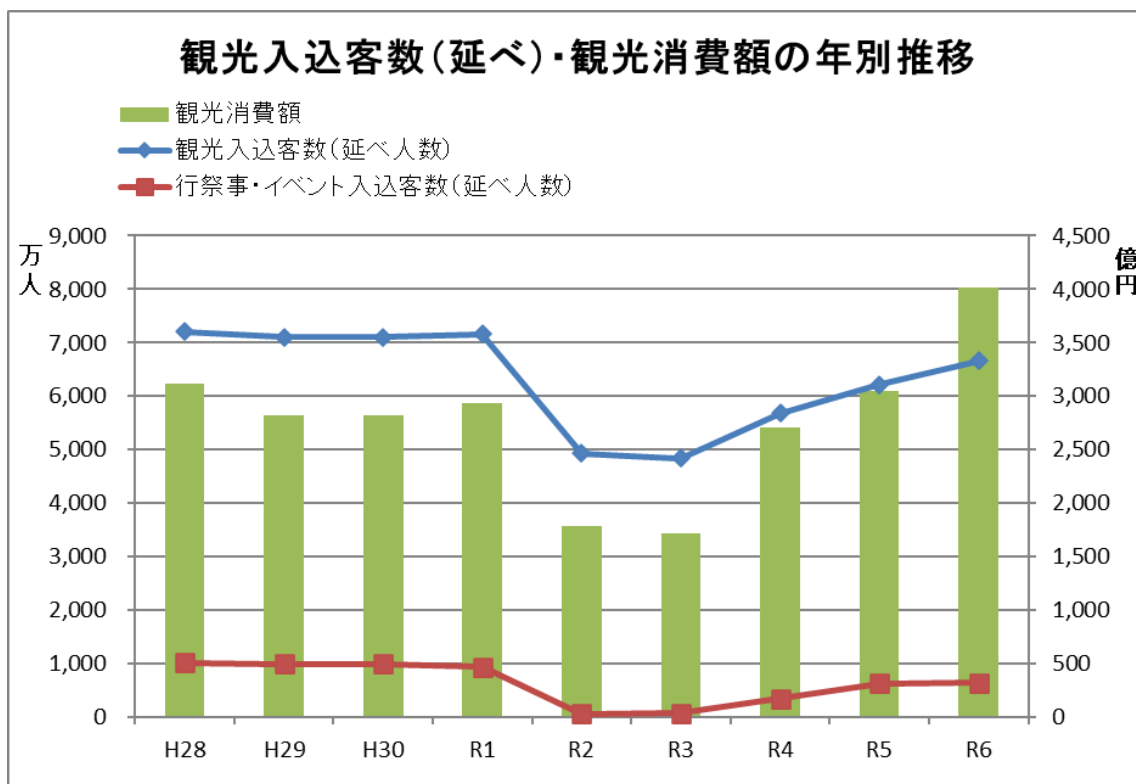


令和7年12月

岐阜県観光文化スポーツ部

観光文化スポーツ政策課

# 1 観光入込客数（延べ）・観光消費額



区 分	R 6 [2024]年	参考：R 5 [2023]年	参考：R 1 [2019]年	
観光入込客数 (延べ人数)	6,655万7千人 (対R5年比 + 7.0%) (対R1年比 △ 7.1%)	6,221万9千人	7,162万8千人	
行祭事・イベント 入込客数 (延べ人数)	642万8千人 (対R5年比 + 3.0%) (対R1年比 △31.3%)	623万9千人	935万4千人	
観光入込客数 (実人数)	4,469万8千人 (対R5年比 + 2.4%) (対R1年比 △ 6.9%)	4,364万9千人	4,799万5千人	
内 訳	日帰り客 (83.4%)	3,728万2千人 (対R5年比 △ 1.1%) (対R1年比 △10.9%)	3,770万8千人	4,182万人
	宿泊客 (16.6%)	741万6千人 (対R5年比 +24.8%) (対R1年比 +20.1%)	594万人	617万5千人
	【うち外国人】	【165万人】 (対R5年比 +118.7%) (対R1年比 + 41.4%)	【75万4千人】	【116万7千人】

区 分		R 6 [2024]年	参考：R 5 [2023]年	参考：R 1 [2019]年
観光消費額		4, 0 1 2 億 7 3 百万円 (対 R5 年比 +31.8%) (対 R1 年比 +36.8%)	3, 0 4 3 億 5 5 百万円	2, 9 3 2 億 8 3 百万円
内 訳	日帰り客	1, 4 0 0 億 9 0 百万円 (対 R5 年比 △ 2.4%) (対 R1 年比 △ 4.1%)	1, 4 3 4 億 8 7 百万円	1, 4 6 1 億 3 3 百万円
	宿泊客	2, 6 1 1 億 8 3 百万円 (対 R5 年比 +62.4%) (対 R1 年比 +77.5%)	1, 6 0 8 億 6 7 百万円	1, 4 7 1 億 5 0 百万円

※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

※宿泊客の「うち外国人」については、観光庁の宿泊旅行統計調査における本県の外国人延べ宿泊者数をもとに算出している。

(令和6年外国人延べ宿泊者数 192.9万人)

- **観光入込客数（延べ人数）**
  - ・ 6, 6 5 5 万 7 千人（対前年比+7.0%）となり、前年に比べ増加した。
- **行祭事・イベント入込客数（延べ人数）**
  - ・ 6 4 2 万 8 千人（対前年比+3.0%）で、前年に比べ増加した。
- **観光入込客数（実人数）**
  - ・ 4, 4 6 9 万 8 千人（対前年比+2.4%）と、前年に比べ増加した。
- **観光消費額**
  - ・ 総額は 4, 0 1 2 億 7 3 百万円（対前年比+31.8%）で、うち日帰り客分は 1, 4 0 0 億 9 0 百万円（対前年比△2.4%）、宿泊客分は 2, 6 1 1 億 8 3 百万円（対前年比+62.4%）であった。
- **主な傾向**
  - ・ 令和6年は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響を受けなくなったことで、観光入込客数（実人数）は前年に比べ増加しており、特に宿泊客数が大きく伸びた。
  - ・ インバウンドについては、航空便の回復や円安により訪日観光需要が拡大し、前年のみならず令和元年度を大きく上回った。
  - ・ 観光消費額は、入込客数の増加や宿泊料等の上昇に伴い、宿泊客では前年を大きく上回った。
  - ・ 一人当たりの平均消費額については、宿泊客分が大きく伸びた反面、日帰り客分は減少した。

<一人当たり平均消費額>

[R 5年] [R 6年]

日帰り： 3, 8 0 5 円→ 3, 7 5 8 円（対前年比△ 1.2%・対 R1 年比+ 7.6%）

宿泊客： 2 7, 0 8 0 円→ 3 5, 2 1 9 円（対前年比+30.1%・対 R1 年比+47.8%）

## 2 観光地点別の集客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	観光地点名	入込 客数	参考：R5[2023]年		参考：R1[2019]年	
			順位	入込客数	順位	入込客数
1	土岐プレミアム・アウトレット（土岐市）	477.1	1	479.1	1	668.3
2	河川環境楽園（各務原市）	445.4	2	418.4	2	477.5
3	高山市街地エリア（高山市）	387.1	3	346.8	3	382.7
4	白川郷合掌造り集落（白川村）	200.0	5	163.8	4	203.1
5	伊奈波神社（岐阜市）	179.5	6	139.0	7	147.5
6	湯の華アイランド（可児市）	166.8	4	164.7	5	168.5
7	千代保稲荷神社（海津市）	122.1	8	124.1	6	160.6
8	岐阜公園（岐阜市）	121.9	9	123.0	11	102.2
9	岐阜メモリアルセンター（世界イベント村ぎふ）（岐阜市）	120.7	11	107.9	8	142.1
10	千本松原・国営木曽三川公園（海津市）	116.8	10	119.2	9	136.4

- 観光地点毎の入込客数は、1位から3位までの地点の順位に変動はなかった。
- 令和5年に比べ、インバウンドの増加もあり、「白川郷合掌造り集落」が22.1%増、「高山市街地エリア」が11.6%増となるなど、特に飛騨地域の観光地点で入込客数が増加した。
- 「国際陶磁器フェスティバル美濃」（多治見市）や「南飛騨 Art Discovery」（下呂市）のイベント開催市の観光地点で入込客数が増加した。

### 3 行祭事・イベント入込客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	行催事・イベント名	入込客数	参考：R5[2023]年		参考：R1[2019]年	
			順位	入込客数	順位	入込客数
1	高山祭（高山市）	37.0	4	28.0	2	40.0
2	ぎふ信長まつり（岐阜市）	36.0	1	44.0	5	34.0
2	道三まつり（岐阜市）	36.0	2	41.0	3	38.0
4	郡上おどり（郡上市）	25.7	3	30.1	6	30.8
5	各務原市桜まつり（各務原市）	22.8	5	21.1	7	29.0
6	刃物まつり（関市）	18.0	7	15.0	-	-
7	チューリップ祭（海津市）	17.0	6	18.4	10	20.6
8	大垣まつり（大垣市）	16.0	20	8.0	4	37.0
8	水都まつり（大垣市）	16.0	10	13.0	15	14.0
10	たじみ陶器まつり（春）（多治見市）	15.0	7	15.0	13	16.0
10	土岐美濃焼まつり（土岐市）	15.0	12	12.0	15	14.0

○ 前回4位であった「高山祭」（高山市）が県内トップとなった。天候によって入込が大きく変動するため、前年に比べ天候に恵まれたことが要因と考えられる。同様に「大垣まつり」（大垣市）が入込客数を伸ばして上位にランクインした。

### 4 経済波及効果（試算）

令和6年の県内観光消費による経済波及効果（観光関連産業の経済波及効果）を試算したところ、生産誘発額は6,080億95百万円、就業誘発効果は63,458人となった。

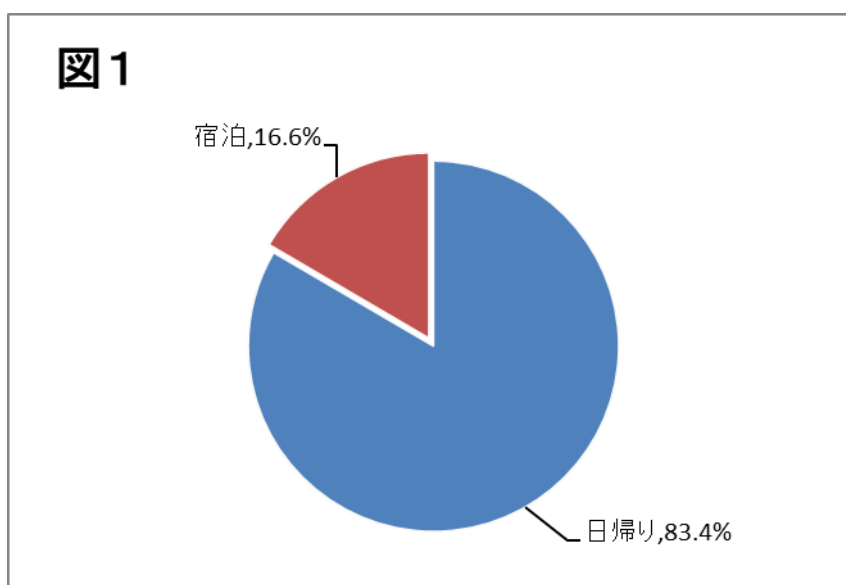
## <参考> 旅行者分類別データ

県内観光客の動向をより詳細に分析するため、観光入込客数（延べ）を実人数に換算し、旅行者分類別、県内圏域別の入込客数、外国人宿泊客数等を算出した。

※詳細は、別添「参考表」参照

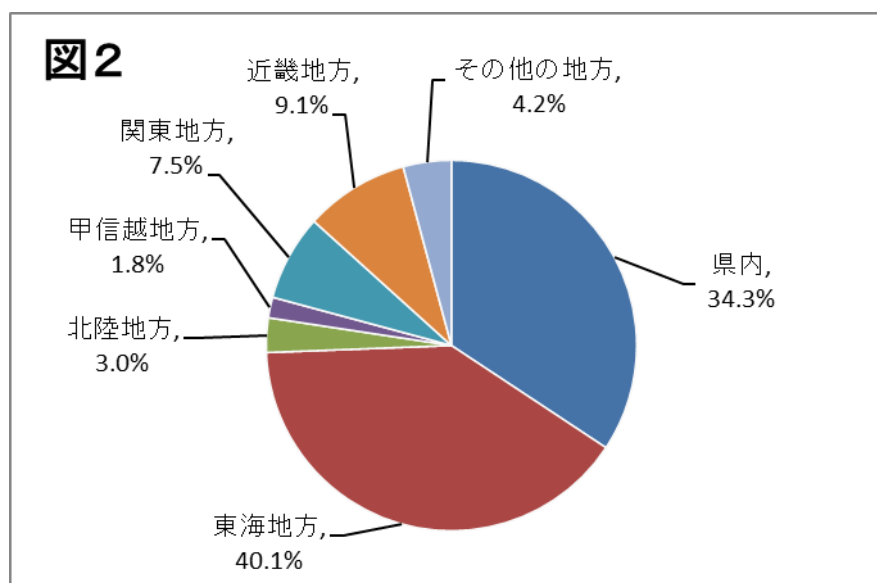
※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

### (1) 日帰り・宿泊別観光入込客数の割合



令和6年の観光入込客数（実人数）は4,469万8千人であり、日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は3,728万2千人（構成比83.4%）、宿泊客は741万6千人（構成比16.6%）であり、依然として日帰り客が多くを占めた。（図1）

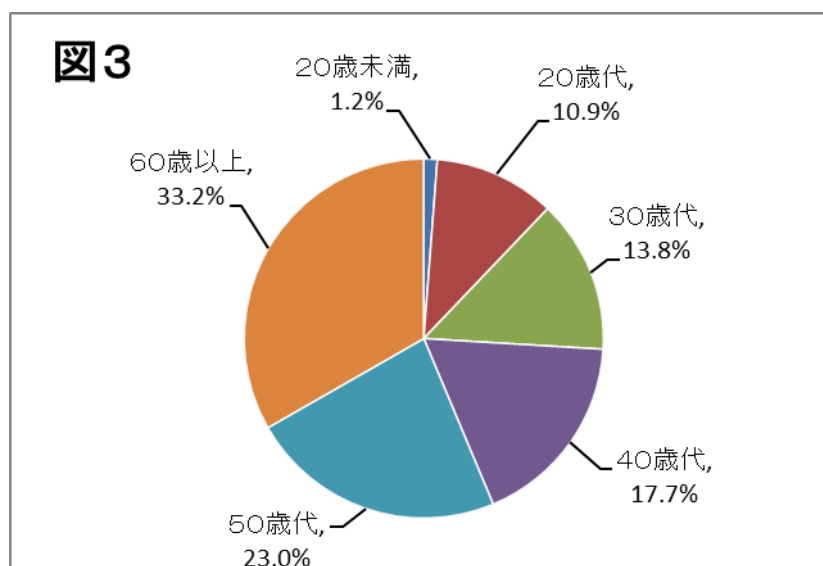
## (2) 居住地別観光入込客数の割合



居住地別に見ると、県全体では県内客は1,535万人（構成34.3%）、県外客は2,934万8千人（構成比65.7%）と、県外客が多くを占めた。

県外客のうちおよそ6割が東海地方からであり、以下、近畿地方（9.1%）、関東地方（7.5%）と続いている。（図2）

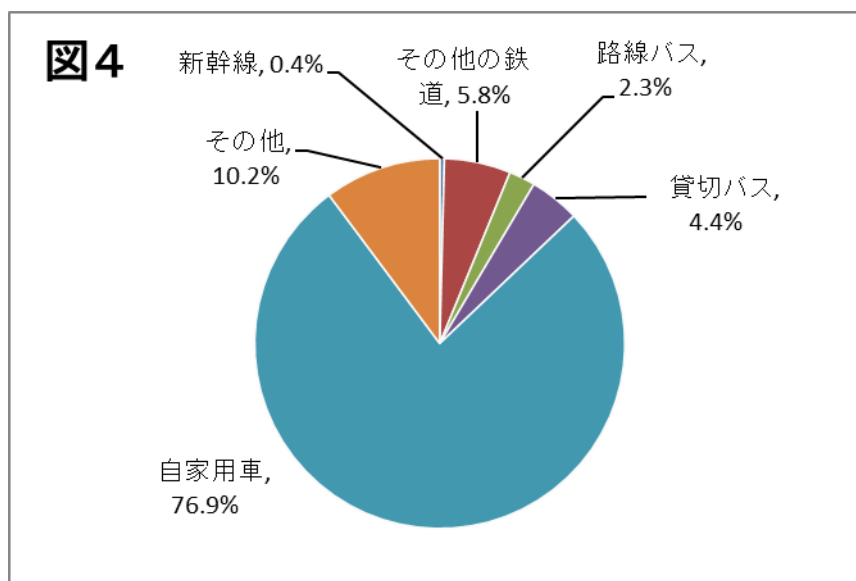
## (3) 年齢別・男女別観光入込客数



年齢別では、60歳以上が33.2%と最も多く、続いて50歳代、40歳代、30歳代と続く。

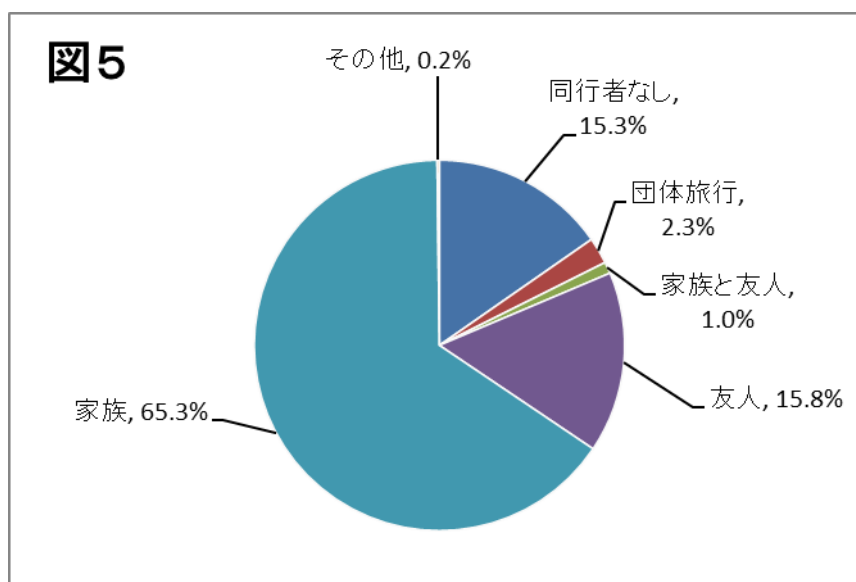
男女別では、男性は2,349万1千人（構成比52.6%）、女性は2,120万7千人（構成比47.4%）と、男性が多い傾向がある。（図3）

#### (4) 利用交通機関別観光入込客数



利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の 76.9%を占めている。一方、前年に比べ、路線バス (1.9%→2.3%)、貸切バス (3.9%→4.4%)、その他 (9.8%→10.2%) の割合が増えている。(図4)

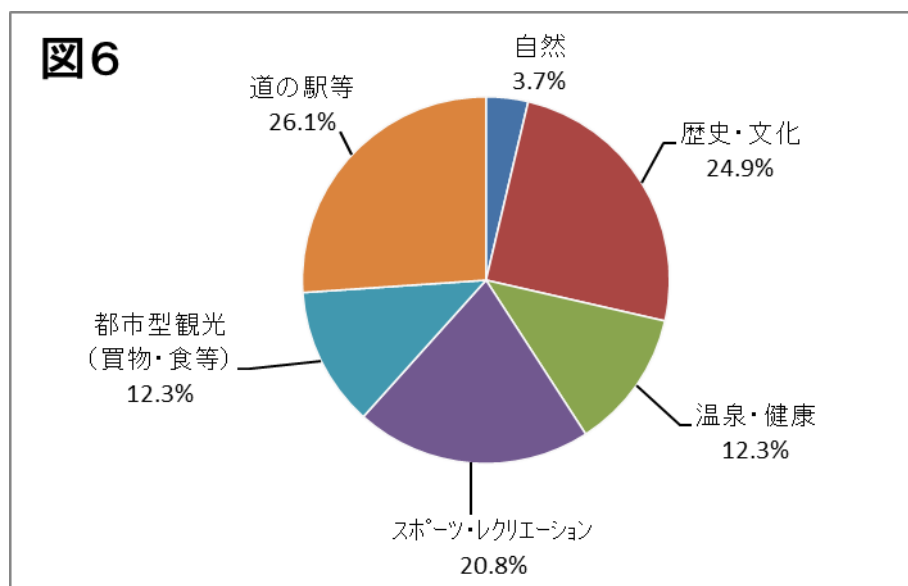
#### (5) 同行者別観光入込客数



同行者別では、「団体旅行」の割合は全体の 2.3%にとどまり、「家族」が 65.3%と最も多く、次いで「友人」が 15.8%と、例年同様、個人旅行が主流となっている。

同行者人数別では、「(本人を含め) 2～3人」が最も多く全体の 65.2%を占め、続いて「1人(同行者なし)」が 15.3%であった。(図5)

## (6) 観光地分類別観光入込客数の割合



観光地分類別では、「道の駅等」(26.1%)、「歴史・文化」(24.9%)、「スポーツ・レクリエーション」(20.8%)の順に多く、以下、「都市型観光(買物・食等)」(12.3%)、「温泉・健康」(12.3%)、「自然」(3.7%)と続いている。(図6)

※観光地の分類方法については、9頁<調査の概要>参照

### 【平均訪問地点数と平均宿泊数】※( )内は前年(R5)比

○1人当たり平均訪問地点数(「観光地点入込客数(延べ人数)」を「観光入込客数(実人数)」で除したものは、1.5地点(+0.1地点)で、四半期別に見ると、1~3月が1.5地点(±0.0地点)、4~6月が1.5地点(+0.2地点)、7~9月が1.4地点(±0.0地点)、10~12月が1.6地点(+0.1地点)であった。

○同一施設における1人当たり平均宿泊数(「宿泊客数(延べ人数)」を「宿泊客数(実人数)」で除したものは、1.1泊(△0.1泊)で、四半期別に見ると、1~3月が1.2泊(+0.1泊)、4~6月が1.2泊(±0.0泊)、7~9月が1.0泊(△0.1泊)、10~12月が1.1泊(△0.1泊)であった。

## <調査の概要>

本調査は、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」（令和5年5月改定）に基づき、実施したものである。

### 1. 調査期間

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

### 2. 調査対象観光地点等

#### ①観光地点の定義

- ・非日常利用が多いと判断される地点。
- ・観光入込客数が適切に把握できる地点。
- ・前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である地点。

#### ②観光地点等の分類

観光地点等の分類は以下の区分による。

■観光地点	
自然	山岳、高原、湖沼、河川、海岸、海中、島、その他自然（エコツーリズム、グリーンツーリズム等）
歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
温泉・健康	温泉地、その他温泉・健康
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリナー・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
都市型観光（買物・食等）	商業施設、地区・商店街、食・グルメ、その他都市型観光（農水産品の直売所、物産館等）
道の駅等	他に分類されない観光地点（道の駅、パーキングエリア等）
■行祭事・イベント	行・祭事、花見、初詣、花火大会、郷土芸能、地域風俗、博覧会、コンサート、スポーツ観戦、映画祭、コンベンション・国際会議、他に分類されない行祭事・イベント

### 3. 調査プロセス

#### (1) 観光地点等入込客数調査

統計の基礎となる観光地点等ごとの入込客数（延べ人数）を把握する。

#### (2) 観光地点パラメータ調査

県内の20観光地点を訪れた観光客を対象に調査を行い、属性別の構成比、平均訪問地点数、平均消費額単価などのパラメータを算出する。

#### (3) 観光入込客数（実人数）・観光消費額単価・観光消費額の推計

上記（1）、（2）及び観光庁より提供される以下のデータを用いて推計する。

- ・観光目的別・居住地別の宿泊観光入込客数
- ・ビジネス目的・県外の日帰り観光入込客数
- ・観光目的別・宿泊／日帰り別の訪日外国人の観光消費額単価
- ・ビジネス目的・宿泊／日帰り別、県内／県外別の観光消費額単価
- ・観光／ビジネス別、県内／県外別実家・キャンプ場等利用補正係数